

キャンパスライフ



本年経済だけの単科大学から、第二の「外国語学部」(英米語学科・中国語学科)が増設され早三年経ちました。

そして、キャンパスは、白亜のイメージから赤レンガへと大きく様変わりしました。訪れる人々は、皆口々に「これが大学ですか?どっかのホテルみたいですね!」など驚きの様子を隠しきれません。そこで、様変わりした大学のキャンパスについて、幾つか紹介してみたいと思います。

急増した女子学生

経済学部のみ時代には、一学年二



〇名ほどであった女子学生が、外国語学部増設にともない、今や一学年一五〇名以上で全学年では六〇七〇〇名に達し、キャンパスはいま草やかなムードで一杯です。当然の事ながら、女子学生のもたらす効果は大きく、例えば、講義の出席率が高くなったり、麦粉苑や食堂などで勉強しあう光景とか、クラブ・サークル活動が活発になったりといった具合なのです。また活気を作っている裏面に施設の充実も見逃せません。

日本初?サテライト・スタジオを持つ カフェテリア(学生食堂)完成!

キャンパスを盛り上げる大きな要因として施設の充実があります。以前からあった

啓明館の食堂が改装され、リフレッシュしたのに加え、新たに啓明館すぐ前に第二学生食堂が建設され五月にオープンしました。一階には、キャンパス内をエリアとするミニFM放送局を兼ね備えたサテライト・スタジオが設置され、放送文化研究会が中心となり、月・

火・木・金曜日の四日間、ディスクジョッキーなどトック番組・音楽などをオン・エアしています。また、一階には、丸善書

店、二階食堂はサン・ナカムラが入店し、食堂内は、とにかく明るく賑やかにになりました。

その他、パイプオルガンが優雅に響きわたるチャペル、三分吹き掛けの希望館など赤レンガで統一された建物は、キャンパスを愛身させ、生き生きとしています。



外国人留学生二〇名が集う国際色

豊かなキャンパス

バス停から友愛寮に向かってすぐ左に、国際セミナーハウスがあります。ここには、アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・東南アジア各国の留学生が集っていま



す。彼らも、国際色豊かで華やかなキャンパス作りに一役かっています。国際交流は近年、益々さかんととなり、アラスカ州立大学をはじめとして一〇数大学に五〇名ほどが長期留学し、そして、短期留学には二〇〇名ほどがイリノイ・ベネディクティン大学、南開大学などで学んでいます。

発展するキャンパス文化

その一翼をになっているのがキリスト教センターで、毎年宗教講演会やコンサートを何度か行なっています。六月には、星台秀郎氏の講演会「讃美歌との不思議な出会い」や、スペインの著名なオルガニストのホセ・ゴンザレス・ウリオール氏をむかえてのチャペル・コンサートなどを開催し、地域文化・キャンパス文化の発展に務めています。今秋後半には次の催しがあります。

(一般公開、入場無料、キリスト教センター)